

研究課題名	West 症候群の治療前脳波検査におけるヒプスアリスミアの周波数・ネットワーク解析による予後予測研究
研究の意義・目的	乳児期に発症することが多いてんかんの一つである West 症候群に罹患した児では、ヒプスアリスミアという特徴的な脳波を認めます。その脳波を左脳、右脳で比較して、主な治療である ACTH 療法や抗てんかん薬治療の効きやすさ、効きにくさとの関連を調べます。
研究を行う期間	倫理委員会承認後 ～ 2023 年 3 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2000 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに大阪市立大学医学部附属病院で West 症候群と診断され、治療を受けた 0 歳～20 歳の方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 診療情報等：【性別、発症時年齢（推定を含む）、背景疾患（染色体異常、脳構造異常など）、周産期歴、家族歴、発達歴、治療内容（ACTH 療法、ビタミン B6 大量療法、抗てんかん薬療法の投与量、投与スケジュール、治療効果、合併症）、初診時の脳波所見、経過および転機】
試料・情報の他機関への提供	特定の個人を識別できない形で、共同研究機関鳥取大学脳神経小児科に情報を提供します。
この研究を行っている共同研究機関	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 助教 金井 創太郎 聖隷浜松病院 小児神経科 主任医長 岡西 徹 埼玉県立小児医療センター 神経科 医長 松浦 隆樹 大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 講師 佐久間 悟、大学院生 矢崎 耕太郎 和歌山県立医科大学附属病院 小児科 助教 前田 真範 京都府立医科大学附属病院 小児科 学内講師 千代延 友裕
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 研究責任者 佐久間 悟 【研究代表機関】鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 研究代表者 金井 創太郎
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	郵便：〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 電話：06-6645-3816 佐久間 悟 メールアドレス：ssakuma@msic.med.osaka-cu.ac.jp